

マン・レイと女性たち

Man Ray and the Women

2022年10月22日(土)～2023年1月22日(日)



A

20世紀を代表する芸術家マン・レイ(1890-1976)。絵画やオブジェ、映画などジャンルを超えて活躍した彼は、1920年代～30年代に成熟期を迎えつつあった写真という新しいメディアの可能性を追求しました。

ウクライナとベラルーシ出身のユダヤ系の両親のもと、ニューヨークで育ち、画家を志した20代から本名のエマニュエル・ラドニツキーを改め、「マン・レイ」と名乗るようになります。既存の価値観を破壊するダダの洗礼を受け、1921年にパリに移り、写真スタジオを設けると、自らが参加したシュルレアリスム運動の活動記録や作品写真、恋人や友人たちのポートレート、ファッション写真などを手がけます。多岐にわたるその作風は、レイグラフィやソラリゼーションのような実験的な技法と相まって、独創的な表現世界を生みだしました。

本展は、とりわけマン・レイのまなざしが捉えた「女性たち」に光を当て、240点余の作品から創作の軌跡を追うものです。ユーモアとエスプリに包まれた自由で豊かなイメージをお楽しみください。

展覧会のみどころ

1. 本展は、芸術家として歩み始めたニューヨーク、シュルレアリスム運動に参加し写真活動を開花させたパリ、第二次世界大戦を逃れ移住したハリウッド、晩年に再び戻ったパリの4章で構成。写真、絵画、彫刻、オブジェなど多様な作品からマン・レイの生涯を辿ります。

2. マン・レイの恋人でモデルであったキキ、助手でもあったリー・ミラー、ファッションデザイナーとして頭角を現したココ・シャネル、詩写真集『容易』のモデルであるニュッシュ・エリュアール、作家ガートルード・スタインといった時代の最先端をゆく個性豊かな女性たちがマン・レイの視点でどのように写し出されたのかを紹介します。

新型コロナウイルス感染拡大防止のためお願い

○発熱や体調不良がある方は、ご来館をお控えください。

○入館時に手指を消毒し、マスクを着用してください(着用が推奨されない乳幼児や障害者へはご配慮をお願いします)。

○混雑状況により、入場制限を行う場合があります。

【お問合せ】 神奈川県立近代美術館 葉山

広報担当: 鈴木彩乃、吉田、鈴木敬子 展覧会担当: 朝木、靄山

Tel: 046-875-2800 Fax: 046-875-2968 E-mail: info.kinbi.474@pref.kanagawa.lg.jp

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1 <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

開催概要

マン・レイと女性たち Man Ray and the Women

会 期：2022年10月22日(土)～2023年1月22日(日)

会 場：神奈川県立近代美術館 葉山(展示室1、2、3a)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日：月曜日(1月9日を除く)、2022年12月29日～2023年1月3日

主 催：神奈川県立近代美術館

監 修：巖谷國士(シュルレアリスム研究、仏文学者、美術批評家、明治学院大学名誉教授)

マリオン・メイエ(20世紀美術研究、国際マン・レイ協会会長)

企画協力：アートプランニングレイ

特別協力：国際マン・レイ協会

後 援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本

協 力：日本航空

観 覧 料：一般1,200円／20歳未満・学生1,050円／65歳以上600円／高校生100円



*中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方(および介助者原則1名)は無料です。

*「マン・レイと女性たち」展の観覧券で、同日に限りコレクション展「内藤 礼 すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している 2022」をご覧ください。

*ファミリー・コミュニケーションの日(毎月第1日曜日:11月6日、12月4日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は割引料金(65歳以上の方を除く)でご覧いただけます。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、同日の会話を楽しむ日「オープン・コミュニケーション・デー」は中止します。

*その他の割引につきましてはお問い合わせください。

*最新情報と来館に際してのお願いは美術館ウェブサイト等を確認してください。

関連イベント情報(予定)

県立社会教育施設公開講座 「マン・レイとその時代」

開催日程: 11月5日(土)	小池一子氏(クリエイティブ・ディレクター)
11月26日(土)	巖谷國士氏(本展監修者/仏文学者/美術批評家/ 明治学院大学名誉教授)
12月10日(土)	青柳いづみこ氏(ピアニスト・文筆家/大阪音楽大学名誉教授)
12月17日(土)	飯沢耕太郎氏(写真評論家)
12月25日(日)	光田由里氏(美術評論家/多摩美術大学教授)

会 場：逗子文化プラザ市民交流センター(神奈川県逗子市逗子4-2-11)

主 催：神奈川県立近代美術館

共 催：逗子市教育委員会

定 員：60名 事前申込制

受 講 料：各回1,000円

*10月4日(火)より申込開始。追ってウェブサイトで告知します。

【お問合せ】 神奈川県立近代美術館 葉山

広報担当:鈴木彩乃、吉田、鈴木敬子 展覧会担当:朝木、靄山

Tel:046-875-2800 Fax:046-875-2968 E-mail:info.kinbi.474@pref.kanagawa.lg.jp

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1 <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

展覧会監修者



マリオン・メイエ Marion Meyer

20世紀美術史家としてアーティストらと交友。1979年に画廊を開設し、ダダとシュルレアリスムを専門に扱う。ジュリエットがパリに設立した国際マン・レイ協会を継ぎ、2004年に会長就任。マン・レイの作品を守り、その光芒を伝えることに尽力している。

〔メッセージ〕

マン・レイは女性たちを愛しました。女性たちを写真に撮り、絵やデッサンに描きました。女性たちはその作品のなかでも最高の位置を占めていました。この展覧会は、マン・レイが女性たちとのあいだに保っていた特別の関係—恋愛関係、芸術的・知的な関係、交友関係などに強調を置いています。

このたび日本のみなさまに、マン・レイの作品における女性たちの位置について、この展覧会を通じて発見していただくことができれば幸いです。本展が日本で大きな歓迎をもって受け入れられますことを祈念申し上げます。



巖谷國士 Kunio Iwaya

仏文学者・明治学院大学名誉教授。1960年代からシュルレアリスムの研究と実践で知られ、第一人者とされる。著書・訳書多数。写真や講演のほか、展覧会監修の仕事も多く、2004-05年の「マン・レイ—私は謎だ」展では、マリオン・メイエと協力した。

〔メッセージ〕

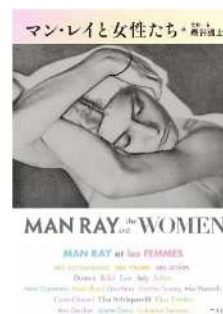
マン・レイは20世紀を代表する多才な芸術家ですが、生涯にわたって数多くの女性像をのこしました。写真作品だけを集めても、一時代の女性文化のギャラリーができるほどです。恋人や友人、女性シュルレアリストや女性芸術家から、社交界・ファッション界・映画界の女性まで—マン・レイは彼女たちと対等に接し、偏見のない客観的な目で、それぞれの美しさを定着しました。その女性観には今日にも必要な新しさがあります。本展では、そうしたマン・レイ自身と出会えるだけでなく、自由に生きた20世紀の女性たちと対話することもできるでしょう。

展覧会構成

- 第Ⅰ章 ニューヨーク 1890-1921
 - Ⅰ-1 セルフポートレート
 - Ⅰ-2 ダダ時代の作品
- 第Ⅱ章 パリ 1921-1940
 - Ⅱ-3 ダダ・シュルレアリスム
 - Ⅱ-4 シュルレアリストたちの肖像
 - Ⅱ-5 キキ・ド・モンパルナス
 - Ⅱ-6 リー・ミラー
 - Ⅱ-7 社交界・芸術界・モンパルナス
 - Ⅱ-8 ファッションと写真
 - Ⅱ-9 裸体からマネキン人形まで
 - Ⅱ-10 女性たちとシュルレアリスム
 - Ⅱ-11 マン・レイの「自由な手」
 - Ⅱ-12 アディ・フィドラン
- 第Ⅲ章 ハリウッド 1940-1951
 - Ⅲ-13 ジュリエット・ブラウナー
 - Ⅲ-14 アートの新天地
- 第Ⅳ章 パリふたたび 1951-1976
 - Ⅳ-15 アートのなかの女性像
 - Ⅳ-16 新しいジュエリーとモード
 - Ⅳ-17 マン・レイとは誰だったか？

展覧会図録

『マン・レイと女性たち』
巖谷國士監修・著 平凡社



*当館ミュージアムショップ
でご購入いただけます。

【お問合せ】 神奈川県立近代美術館 葉山

広報担当：鈴木彩乃、吉田、鈴木敬子 展覧会担当：朝木、靄山

Tel: 046-875-2800 Fax: 046-875-2968 E-mail: info.kinbi.474@pref.kanagawa.lg.jp

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1 <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

[特集]マン・レイと日本

Man Ray and Japan

2022年10月22日(土)～2023年1月22日(日)



B

企画展「マン・レイと女性たち」に際し、当館独自の小展示として「マン・レイと日本」を特集します。マン・レイは写真、オブジェ、映画、絵画に加え、ダダやシュルレアリスムの詩人と詩画集も手がけました。その幅広い活動は、彼がニューヨークからパリに移った1920年代後半から日本でも紹介され、戦前の前衛芸術家たちに影響を与えました。本展では、日本のシュルレアリスム運動を牽引し、詩人、批評家、翻訳家として活躍した瀧口修造(1903-1979)と山中散生(ちるう、1905-1977)が海外のシュルレアリストと交わした書簡、写真、書籍などの資料を展覧し、日本におけるマン・レイの受容の一端を辿ります。マン・レイが詩人ポール・エリュアールと共作した詩画集から、瀧口が阿部芳文[展也(のぶや)](1913-1971)と編んだ詩画集『妖精の距離』(1937)への流れを追います。

戦後、その阿部や瀧口の導きで渡欧した彫刻家、宮脇愛子(1929-2014)は、1962年から晩年のマン・レイと交流を結び、モデルもつとめました。二人の交流を示す書簡やオブジェを紹介すると共に、1960年代後半、平面から立体へと変貌を遂げていった宮脇の創作を振り返ります。

開催概要

[特集]マン・レイと日本 Featuring Man Ray and Japan

会 期：2022年10月22日(土)～2023年1月22日(日)

会 場：神奈川県立近代美術館 葉山(展示室4)

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日：月曜日(1月9日を除く)、2022年12月29日～2023年1月3日

主 催：神奈川県立近代美術館

協 力：慶應義塾大学日吉メディアセンター

観 覧 料：「マン・レイと女性たち」展の料金に含まれます。

【お問合せ】 神奈川県立近代美術館 葉山

広報担当：鈴木彩乃、吉田、鈴木敬子 展覧会担当：朝木、靄山

Tel: 046-875-2800 Fax: 046-875-2968 E-mail: info.kinbi.474@pref.kanagawa.lg.jp

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1 <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

広報用画像データ一覧

展覧会広報用として、画像データを用意しております。ご希望の場合は、下記のメールアドレス宛にお申し込みください。

その際、次の必要事項の明記をお願いいたします。

展覧会名／希望画像のアルファベット／社(団体)名／媒体名／掲載予定日／担当者名／連絡先

画像キャプション

A《リー・ミラー(ソラリゼーション)》1929年頃 ゼラチン・シルバー・プリント(後刷) 個人蔵
Courtesy Telimage, Photothèque Man Ray, Paris/ ©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

B《宮脇愛子の肖像》1962年 ゼラチン・シルバー・プリント(レプリカ) 宮脇愛子アトリエ蔵
Courtesy Aiko Miyawaki Atelier/ ©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

C《ココ・シャネル》1935年 ゼラチン・シルバー・プリント(後刷) 個人蔵
Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris/ ©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

D《カメラをもつセルフポートレート(ソラリゼーション)》1932-35年頃 ゼラチン・シルバー・プリント(ヴィンテージ) 個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris/
©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

E《永続するモチーフ》1923/1971年 木製メトロノーム、目の写真 個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris/
©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

F《ニュッシュ・エリュアール(詩写真集『容易』より)》1935年 ゼラチン・シルバー・プリント(マン・レイによる後刷) 個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris/
©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

G《手(レイヨグラフ)》1927年 ゼラチン・シルバー・プリント(後刷) 個人蔵
Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris / ©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

H《アドリエヌ・フィドラン》1937年 ゼラチン・シルバー・プリント(ヴィンテージ) 個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris/
©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

I《ペシャージュ(桃・雲・風景)》1969/1972年 木製箱、人工の桃3個、綿、塗料 個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris/
©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

J《黒と白》1926年 ゼラチン・シルバー・プリント(後刷) 個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris/
©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698

K《ジュリー》(版画集『時を超えた貴婦人たちのバラード』より) 1971年 エッチング、アクアティント(多色)、紙 個人蔵
Photo Marc Domage, Courtesy Association Internationale Man Ray, Paris/
©MAN RAY 2015 TRUST/ ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 G2698



C



D



E

【お問合せ】 神奈川県立近代美術館 葉山

広報担当: 鈴木彩乃、吉田、鈴木敬子 展覧会担当: 朝木、靄山

Tel: 046-875-2800 Fax: 046-875-2968 E-mail: info.kinbi.474@pref.kanagawa.lg.jp

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1 <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>



F



G



H



I



J



K

関連情報

本展と同時期にDIC川村記念美術館(千葉県佐倉市)でマン・レイに関する展覧会が開催されます。併せてお楽しみください。

「マン・レイのオブジェ 日々是好物 | いとしきものたち」

会場：DIC川村記念美術館

会期：2022年10月8日(土) - 2023年1月15日(日)

*詳細はDIC川村記念美術館ウェブサイトを確認してください。

(<https://kawamura-museum.dic.co.jp/art/exhibition-past/2022/manray/>)

【お問合せ】 神奈川県立近代美術館 葉山

広報担当: 鈴木彩乃、吉田、鈴木敬子 展覧会担当: 朝木、靱山

Tel: 046-875-2800 Fax: 046-875-2968 E-mail: info.kinbi.474@pref.kanagawa.lg.jp

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1 <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>